

川根本町 図書室だより



2023年1月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内7コース
TEL:0547-59-3106(文化会館)
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時～午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(22日)・年末年始(1日～4日)
祝日の翌日(10日)
- ☆ やまびこ号巡回コース:
 かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

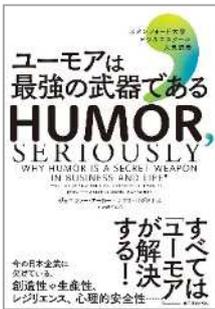
新 着 図 書

『ユーモアは最強の武器である』

ジェニファー・アーカー 他 著 東洋経済新報社

ユーモアで乗り越える!

【自己啓発】文



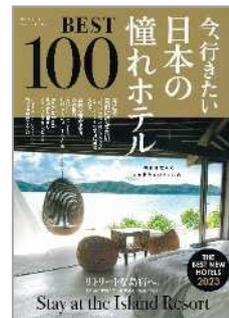
ビジネスや人生のあらゆる場面で「ユーモア」は最強の武器となる! 陽気なコミュニケーションの取り方や、困難な局面を乗り切る方法、陽気さを戦略的に用いて、生産性を向上させる方法などを紹介する。

『今、行きたい日本の憧れホテルBEST 100』

朝日新聞出版

行きたかった場所へ、旅へ出る!

【旅】山



国内旅行に関心が高まる昨今、ちょっと贅沢なホテルステイに注目。話題のニューフェイスを中心に、日常を忘れて憩える日本全国のホテルを紹介。

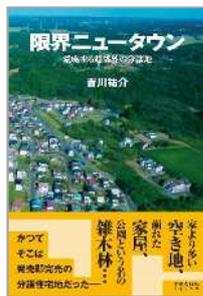
『限界ニュータウン 荒廃する超郊外の分譲地』

吉川祐介 著 太郎次郎社エディタス

分譲地の光と闇

【ルポ】文

千葉県の北東部や外房方面には、「限界ニュータウン」と呼ばれるような分譲地が数多く存在する。そのほとんどが投機目的で分譲されたミニ住宅地である。道路は狭く、アクセスする公共交通手段もなく、上下水道なし、売れない分譲区画は荒地化していく。そのような限界ニュータウンに赴き、その現状を辿ってきた著者が、その利活用を考える。



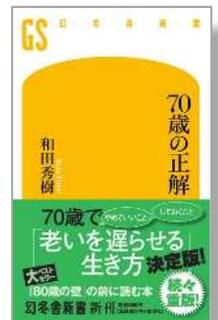
『70歳の正解』

和田秀樹 著 幻冬舎

70歳でやめていいこと、しておくこと

【健康】山

脳だけでなく健康も見た目も、分岐点は70歳。いつまでも若々しい人であるか、一気に老け込むかは、60代から70代にかけての生き方で決まる。健康で、人間関係にもお金にも追い詰められない「最高の老後30年」を送るには? アンチエイジング、家族円満のコツ、お金の知識など、60代から70代にかけての生き方を紹介する。



今月の
特集

文化会館図書室

ひびく名言集

- ・美智子さま愛のお言葉大全
- ・フツと心を軽くする仏教のことは
- ・松下幸之助 日々のことは
- ・光る言葉
- ・人生はニャンとかなる 他



※所蔵状況 文 文化会館図書室 山 山村開発センター図書室

裏面へ続く

◎ 新着図書

新刊の詳しい情報は、
【川根本町図書ネット】で検索

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『なんとかしなくちゃ。青雲編』 恩田陸 著 文藝春秋</p> <p>大阪の海産物問屋の息子を父に、東京の老舗和菓子屋の娘を母に持つ、梯結子。彼女は、幼い頃からキモチワルイ状況をそのままにはできなくて…。結子の「問題解決とその調達人生」を描く。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>● 『ハル、色 竹本義太夫伝』 岡本貴也 著 幻冬舎</p> <p>届け、この声。あのひとの、胸の奥深くまで。江戸中期、百姓だった若者が、恋する女性のために人生すべてを芸事に捧げ、「新浄瑠璃」なる芸術を作り上げた。竹本義太夫の七転八倒の人生を描く。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>● 『憐憫』 島本理生 著 朝日新聞出版</p> <p>そしていつしか、私は彼を手放せなくなっていた。芸能界に倦んだ「私」が夜の街で偶然出会った男・柏木と過ごした混沌の日々。とある男女の関係と心情を繊細に描く。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>● 『やっかいな食卓』 御木本あかり 著 小学館</p> <p>専業主婦として家庭を支えてきた料理上手の姑。フードスタイリストだが日々の食事は簡素でよとする嫁。突然の二世帯同居でふたつの食卓がぶつかって…。多彩で魅力的な料理シーンも満載の令和時代の家族“食”小説。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>● 『葉と嘘の季節』 米澤穂信 著 集英社</p> <p>高校で図書委員をつとめる次郎と詩門は、ある日、図書室の返却本の中に、押し花の葉を見つける。それは猛毒のトリカブトで、校舎裏で栽培されているのも発見され…。「本と鍵の季節」の続編。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>● 『特殊清掃人』 中山七里 著 朝日新聞出版</p> <p>誰もいない部屋にこそ、嘘のない生きざまが現れる。特殊清掃業者に日々、押し寄せる様々な依頼。彼らの仕事とおして、孤独死した人々が抱えていた事情が浮かび上がる。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>● 『清浄島』 河崎秋子 著 双葉社</p> <p>昭和29年初夏。動物学者・土橋は礼文島に赴任する。島の出身者から相次いで発見された「エキノコックス症」を解明するためだった。島民を苛む病を撲滅すべく、土橋は奮闘を続けるが…。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>	<p>● 『十三夜の焰』 月村了衛 著 集英社</p> <p>幣原喬十郎はある夜、男女の死体を発見する。その傍らには涙を流す男が…。十三夜の湯島で出会った幕府の番方・喬十郎と闇社会で生きる千吉。20年以上にわたる2人の因縁を描く。</p> <p style="text-align: right;">小説</p>
<p>● 『こちょこちょ』</p> <p>はるな檸檬 作 文響社</p> <p>リズムカルで歌うように読める言葉と、カラフルな色がいっぱい! あかちゃんと楽しくふれあえるあそびをギュッと集めた、スキップ絵本。</p> <p style="text-align: right;">文</p>	<p>● 『おすしがふくをかいにきた』</p> <p>田中達也 作 白泉社</p> <p>おすしが服を買いにお店にやってきた。数あるすしネタから、何に変身するのかな? アイスクリームやいちごたちも、愉快なお買い物を楽しみ…。楽しい写真絵本。</p> <p style="text-align: right;">山</p>



『バスが来ましたよ』

由美村嬉々文 松本春野絵 アリス館

この本は、実話をもとにした絵本です。
目が見えない男性と小学校3年生の女の子の小さな親切。
だれかにおそわるのではなく、はじまったしんせつ。
それを見ていたまわりの子どもたちが、うけついでいってくれた。
心あたたまるお話です。

読み聞かせて読んでいただいたり、子供から大人まで多くの方に
読んでいただきたい一冊です。

山村開発センター所蔵

図書室スタッフK